

## 平成26年度関西支部総会を開催

---

---

7月7日（月）、（一社）日本航空宇宙工業会の平成26年度関西支部総会が活況のうちに開催された。

関西支部は、昭和29年9月、当時の日本航空工業会役員会で設立が決定されて以降、大阪府、京都府、兵庫県及びその周辺地区の会員企業を対象に、勉強会、講演会、工場見学会などを実施してきている。

支部長は、川崎重工業(株)、新明和工業(株)、住友精密工業(株)、(株)島津製作所が歴任し、現在会員会社22社を構成メンバーとして活動している。

航空宇宙分野において、地域として結集し、技術力、生産能力等を高める動きが活発化していることを考慮すると、関西地区会員会社の意見交換、議論の場として、活動内容の充実を図っていく必要がある。

平成26年度総会と当日実施された講演会、工場見学および懇親会の概要は次のとおりである。

1. 日 時：平成26年7月7日（月）13：30～17：00
2. 場 所：川崎重工業株式会社 明石工場
3. 出席者：関西支部：久山利之 支部長以下、会員22社中20社33名  
本 部：今清水浩介 専務理事、武藤総務部部長
4. 当日の行事：
  - (1) 総 会（13：30～14：20）
    - ①支部長挨拶：久山支部長
    - ②本部挨拶：今清水専務理事
    - ③平成25年度支部事業報告：久山支部長
    - ④平成25年度本部事業報告：武藤総務部部長
    - ⑤平成26年度本部事業計画：武藤総務部部長
    - ⑥支部会員異動紹介：吉田事務局代表退会（一社）KEC関西電子工業振興センター
  - (2) 講演会（14：30～15：20）  
演 題：「民間航空機用エンジンの開発動向について」  
講 師：川崎重工業(株) ガスタービンビジネスセンター  
航空エンジン技術部長 理事 松広 純二 氏
  - (3) 工場見学（15：30～17：00）
  - (4) 懇親会（17：00～18：30）



会場風景



今清水専務 挨拶

### 「関西支部の組織と活動」

#### ○関西支部会員会社（22社、五十音順）

インターナショナルタースクフォース(有)、川崎重工業(株)、川西航空機器工業(株)、(株)神戸製鋼所、(株)ジェイテクト、(株)島津製作所、新明和工業(株)、(株)ジーエス・ユアサテクノロジー、(株)スギノマシン、新日鐵住金(株)、住友精密工業(株)、双日エアロスペース(株)、(株)ダイセル、(株)寺内製作所、ナブテスコ(株)、日立金属(株)、(株)日立製作所、(株)フジキン、古野電気(株)、三井精機工業(株)、三菱スペース・ソフトウェア(株)、森村商事(株)

#### ○支部長・副支部長

支部長：川崎重工業(株) 執行役員 ガスタービン・機械カンパニー  
ガスタービンビジネスセンター長 久山利之氏

副支部長：新明和工業(株) 執行役員 航空機事業部長 深井 浩司氏

同：住友精密工業(株) 専務取締役 田岡 良夫氏

同：(株)島津製作所 航空機事業部 副事業部長 林 宗浩氏

### 久山支部長挨拶（要旨）：

本日はお忙しい中、皆様にお集まりいただき、ありがとうございます。また、工業会本部から今清水専務理事様、武藤総務部長様にお越しいただき、厚くお礼を申し上げます。

私は関西支部長の久山でございます。今年度の関西支部総会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

我が国の航空宇宙産業界の近年の進展は目覚ましいものがあります。

民間航空機分野ではボーイング787の機体構造部分の35%を我が国で担当するに至っており、特に、使用されている全ての炭素繊維複合材は日本企業が供給しています。また、それに搭載されているGE社及びRR社のエンジンについて、それぞれ15%を我が国の企業が担当しています。さらに、エアバス社のA320neoに搭載されるPW1100G-JMエンジンについては、V2500と同じく我が国で23%を担当して開発が進められており、年内には初飛行の計画です。

宇宙分野においては、H-II A、H-II B合わせて96%以上の高い打上げ成功率を誇っています。また、最近では固体ロケット イプシロンの打上げにも成功しており、今後は世界のマーケットでの活躍が期待されています。

このように、航空宇宙産業は順調に成長していますが、さらに、将来予測においても世界の民間航空機市場は今後20年間、年率約5%の旅客の伸びが期待され、機体需要も約3万機とされている分野です。また、航空宇宙産業は関連する技術分野が非常に広いため、他産業に比べて裾野が広く、性能や信頼性も非常に高いものが求められ、付加価値の高い分野であると言えます。そのため、我が国にとっては、さらに伸ばすべき重要な戦略的分野と位置付けられます。

このように大きな期待がかかる分野ではありますが、日本の現状はまだまだ小さい分野だと言わざるを得ません。現在の成長は国からの支援をいただきながら、各社がそれぞれ技術力向上の努力やコストダウンへの取り組みを行ってきた成果ではありますが、世界に比肩するには、これからも努力を継続していく必要があります。取得した独自技術や得意技術を、特に国際共同開発事業が主になると思いますが、展開して産業界がさらに発展していくことを願っております。

さて、この関西支部には機体、エンジン、装備品、機器、材料そして商社と、あらゆる分野の企業が集まっています。皆様からご意見を頂きながら、本総会を始めとする関西支部の活動が、より大きな事業分野へ成長する機会となることに寄与したいと考えております。皆様方のご支援を賜りたく、よろしく願い申し上げます。

本日は、総会議事に続きまして、航空機エンジンに関する講演、さらに弊社明石工場の見学、また懇親会も予定させていただいておりますので、ご参加のほど宜しく願い致します。

以上、簡単ではございますが私の挨拶とさせていただきます。



久山支部長 挨拶

**講演「民間航空機用エンジンの開発動向について」(要旨)：**

民間航空機の市場は、2032年までの20年間で機体数が倍増すると予想されています。その中での各エンジン開発プロジェクトへの川崎重工業の取り組みについて紹介いたします。

当社は1980年代の5カ国共同開発「V2500」エンジンプロジェクトへの参画以来、30年以上の長きにわたって民間航空機用エンジンの開発・製造に携わってきました。当初は部品の開発・製造の分担からはじまり、近年は、英ロールス・ロイス社の大型機用エンジンTrentシリーズの開発において、パートナー会社として上流工程の基本設計段階から参画し、中圧圧縮機(IPC)モジュールを設計・製造のみならず組立まで一貫して担当するようになったほか、当社明石工場の大型エンジン運転セルにおいてエンジンの開発運転試験の一部を実施するなど、より重要な役割を担うようになってきました。また、米プラット・アンド・ホイットニー社との関係では、エアバスA320neoシリーズ向けPW1100G-JMエンジンの開発プログラムにおいて、日本航空機エンジン協会(JAEC)のメンバーとして、ファンディスクのような重要回転体を含む部品設計・製造のほか、高サイクル疲労(HCF)試験、ファンディスク・アッシーのオーバースピード試験、バースト破壊試験及びサイクリックスピン試験を担当しており、そこでは当社が培ってきた試験技術が生かされています。

一方で、今後の民間航空機用エンジンに要求される低燃費、低騒音、低NO<sub>x</sub>といった環境性能に応えるため、複合材ファンケース、ブリスク(ブレードとディスクの一体成型)、低NO<sub>x</sub>燃焼器やパワー・ギアボックスといった技術開発を継続的に行っています。

当社の民間航空機用エンジンの生産は、主に、神戸市北西部・西神インダストリアルパーク内にある西神工場で行っており、広大な敷地内に、大型部品に対応した加工・組立・検査設備を多数配置しています。また、TrentエンジンIPCモジュールの組立工程においては、社内ネットワークで組立現場と技術部門・生産管理部門・品質保証部門とを結び、従来は紙で行っていた作業指示や作業記録・検査記録を電子化することで、生産現場での作業性を大幅に向上し、設計変更に迅速かつ柔軟に対応することを可能としています。

当社では今後も民間航空機市場の拡大に追従する開発・生産体制を維持していくとともに、航空機用エンジンへの高度な品質要求に応えられる製品を提供していきます。



松広氏 講演